FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、２月10日㈰・11日㈷に開催の「信夫三山暁まいり」で奉納する大わらじを一手に引き受けて制作し、わらじ作りの技術を継承する御山敬神会会長の加藤勝夫さんにインタビューしました。

御山敬神会
会長　加藤　勝夫さん

会長となったきっかけは？

元々、父が御山敬神会の会員で大わらじを作ったり、他の地区に出向いてわらじ作りを教えたりしていました。会員として活動している父を陰ながら応援し、私も地元のために貢献したいと思っていました。33年続けてきたサラリーマンを定年前に退職し、民生委員を務めた後、清水地区の自治振興協議会、町会連合会の会長となり、一昨年、前会長さんから「やってほしい」と声を掛けていただいたのがきっかけです。

活動内容は？

1月11日の「農の始め」から敬神会会員10人で長さ12メートル、幅1・4メートル、重さ2トンの大わらじを約2週間かけて制作し、2月10日の「信夫三山暁まいり」（裏表紙参照）で信夫山にある羽黒神社に奉納しています。その他に、福島市外の神社から依頼されてわらじを制作し奉納したり、地元の方々を対象に正月飾りの作り方を教えたりしています。

会長になって思うことは？

日本一の大わらじは、さまざまな企業や個人の方にご賛同いただけるおかげで作り続けられています。また、暁まいり当日にわらじを担ぐ大人たち、「子どもわらじパレード」に参加の地元小学生たちなど、多くの方々の協力で400年の伝統が受け継がれています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今後の展望は？

まずは2月10・11日の暁まいりですね。それに合わせて敬神会でわらじを制作していきます。日本一の大わらじが練り歩く姿が見られる、年に1度のチャンスです。他にも見どころは、大きな掛け声で沿道の人々を楽しませてくれる「子どもわらじパレード」です。元気いっぱいに担ぐ子どもたちをぜひ見に来てください。

昔と比べて、大わらじが羽黒神社に奉納されてからお参りする人が少なくなりました。これからもっと多くの人が「行ってみよう、見てみよう、参加してみよう」と思えるように、関係団体と協力してPRも強化したいと思います。暁まいりは五穀豊穣と健康を祈願する他にも、山頂までの急な坂道を男女が3年続けて助け合いながらお参りすると恋が結ばれると伝えられ、縁結びにもご利益があると言われています。加えて、身体強健・家内安全・合格祈願などの願いも叶うと言われています。皆さんにお参りしてほしいのが一番の望み・思いです。今後参拝する人を増やすために、信夫山にもっと関心を持ってもらう活動もしていきたいと思います。

▲今年も400年の伝統を誇る大わらじが信夫山の羽黒神社に奉納されます

We Love♥ ふくしま！

第12回『平成の終わりを前にして』

平成最後の年が明け、平成の世も残り３カ月となりました。５月１日には皇太子殿下が新天皇に即位され、新しい元号となります。

平成を振り返えると、日本は東日本大震災など多くの災害に見舞われました。世界各地では紛争が生じ、テロも多発しています。

少子高齢化は逆ピラミッド型の人口減少社会へと進行して将来への不安を、地域コミュニティの希薄化は日々の暮らしの不安をもたらしました。平和のありがたさとともに、安全・安心の大切さを再認識したのが平成の時代ではないでしょうか。

一方で、情報通信技術の発展が大きく社会を変貌させました。携帯電話がスマートフォンへと進化し、コンピュータや辞書、カメラ、テレビ、音楽プレーヤーにもなる。こんなことが平成の初めに想像できたでしょうか？

来るべき新時代、福島市では、平成の流れから改めて災害対策や日常生活面での安全・安心の基盤をしっかりと強化するとともに、復興の歩みを加速しつつ、平成に芽生えた創生の芽を大きく育てていきたいと思います。本年６月１・２日に開催する東北絆まつりや東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連のイベントを大いに盛り上げ、また中心部などの新しいまちづくりを新時代への弾みとして、活力ある福島市を築いていきたいと思います。

それにしても、天皇・皇后両陛下には感謝と尊敬しかありません。象徴天皇の在り方を追求され、災害のたびに被災地を訪問され、国民と同じ目線に立って励ましてくださいました。また、昭和から平成に移行する際は、自粛ムードが全国を覆い、時代の終焉が強く意識されましたが、退位継承の今回は、さまざまな議論はあるでしょうが、感謝を胸に、希望に満ち力強く次の時代に踏み出せるような気がします。

皆さんも、平成を振り返りつつ、新しい時代への展望を描いてみてはどうでしょうか？

福島市長　木幡　浩